山とスポーツクライミング情報誌

登山月報

JMSCA
登山月報　第629号　令和３年８月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

No.629

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）を終えて …… 2
第４回コンバインドジャパンカップ盛岡…… 3
第151回 Mountain World …… 8
新連載 Enjoy Climbing …… 9
ＳＡＧＡスポーツピラミッド（ＳＳＰ）構想の発射台に …… 10
寄贈図書…… 10
「お世話をおかけしました」　八木原圀明…… 11
42年間の関わりの中で　尾形好雄 …… 13
表紙のことば、編集後記 …… 14

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）を終えて

日本代表ヘッドコーチ　安井博志

2021年８月３日から６日までの４日間、青海アーバンスポーツパークにて暑い東京で男女20名ずつの熱い戦いが繰り広げられた。

日本からは男子：楢﨑智亜・原田海、女子：野口啓代・野中生萌が参加した。大会は男子から始まり楢﨑が予選を順当に２位通過、原田は18位で予選落ちとなった。原田は予選スピード競技にて故障していた指をさらに悪化させる不運なアクシデントがあったが、最後のリード競技まであきらめず全力を尽くした登りを見せてくれた。

男子決勝ではフランス・バサ選手が予選で負傷したため７名で行われた。スピードで１位を狙った楢﨑はスリップして２位、ボルダリングで巻き返しを図ったが２課題目のゴールが取れず３位とわずか１ポイント差の４位でメダルを逃した。

女子も予選から厳しいラウンドであったが野中３位、野口４位で予選を通過した。決勝ではスピード１回戦を落ち着いたレースで共に勝ち上がり、野中３位・野口４位の好位置につけてボルダリングへ。しかし、二人が得意とするボルダリングでは課題に苦しめられ思うように順位が上げられずリードへ向かうことになった。この時点で１位のヤンヤ（スロベニア）は抜け出しておりメダル圏内には５名が可能性を持つ展開となっていた。２人とも得意種目で順位を上げられなかったことで難しい精神状態になり追い込まれた状況であった。最後のリード競技で野口は競技人生最後の登りとなったが疲労しきった身体を精神力と強いプライドで１手１手出す姿に会場全体が声援で後押しした。素晴らしいクライミングだった。野中はボルダリング競技中に膝をさらに悪化させたが、痛みをこらえて勝負ポイントを越える素晴らしい登りでメダルを引き寄せた。最終選手であるセオ（韓国）は得意のリードで高度を上げて２位タイの結果となったことで野口とアレクサンドラ（ポーランド）が64ポイントの同点となったが、２種目で順位が上回った野口が大混戦を制し見事に銅メダルを獲得した。

大会開催までは、新型コロナウイルス感染症に１年延期された中、コンディショニングも精神的にも難しい状況であった。日本代表チームの代表として参加した４名の選手も先の見えない中でも努力を重ねてきた。チームの仲間達も各所で強化活動に協力してくれたおかげで４名とも大会へ向けてコンディションを高められたはずだと思う。４名のオリンピアンが経験したことをパリ大会に活かし、さらなる日本選手の活躍を誓いたい。

この東京大会の基本コンセプトは、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、「そして、未来につなげよう（未来への継承）」であり、オリンピックで初めてクライミングを目にした世界中の多くの人達にもクライミング界にとってもポジティブな改革をもたらす大会となったはずだ。

最後に国の期待と責任を背負い最後まで死力を尽くした40名の選手達の健闘に最大限の拍手を送りたい。そして、大会を終えるまでご支援ご協力いただいた皆様、大会開催にご尽力いただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。

スポーツクライミング

第４回コンバインドジャパンカップ盛岡

実行委員長　村岡正己

第４回コンバインドジャパンカップ（以下ＣＪＣ2021）を２種目に決定したのは今年の１月でした。それまでは、残りのオリンピック代表男女１名ずつを選考する大会として位置付けてきました。一昨年より、代表選考が当初と違った解釈となりＣＡＳに提訴していましたが認められず、日本は世界選手権の成績より野口啓代、野中生萌、楢崎智亜、原田海が代表に内定。

競技委員会としては、オリンピック前のイベントとして３種目にするか、パリ2024の複合フォーマット（ボルダリング、リード）にするか悩みましたが、後者を選択。ただ、オリンピック代表選手からの３種目のシュミレーションを行いたいとの要望もあり、コンバインドの前にスピードのイベント（スピードジャパンオープン：ＳＪＯ）を実施。オリンピック代表選手は、このスピードイベントに参加してからのコンバインドへの出場と変則的なスケジュールとなりました。また、この大会は当初５月を予定していましたが、選手のＷＣへの参加と感染防止による行動制限より、参加できる日が６月18日（金）～19日（土）しかないという条件よりこの日程での開催となりました。

会場：岩手県盛岡市の岩手県営運動公園
　　スポーツクライミング競技場

さて今回のreportは、一部スタッフへのインタビュー方式とし、ベニュープロデューサーの藤枝、リザルト担当の山本、審判長の山崎を中心に大会の中身をみなさんにお伝えします。

１．競技

【スピードジャパンオープン】女子７名、男子15名

――５月28日に開催されたソルトレイクシティーのスピードＷＣで野中生萌が３位と日本人で初の表彰台に立ちました。今回のＳＪＯはどうでしたか。

藤枝：野中生萌選手は、その好調さを維持している感じで日本記録を連発し７.88を記録しました。そして、東京2020代表３選手が揃って予選上位を占めました。本大会に向けてのコンディションの良さを感じました。

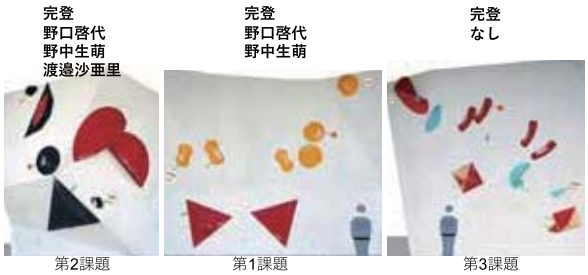
――決勝は、オリンピック代表選手はキャンセルとなりましたが印象に残った選手はいますか。

藤枝：そうですね。女子は河上史佳、男子は安川潤がそれぞれ好タイムで優勝を決め、スピード種目での日本選手のレベルアップを実感できる展開だったですね。

【コンバインドジャパンカップ】女子19名、男子21名

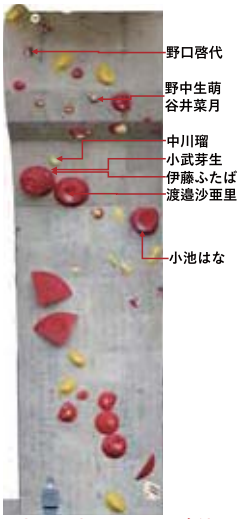
●女子決勝　ボルダリング

第１課題は、シンプルでバランシーな課題。野口啓代、野中生萌が完登。第２課題は、スタート直後に頭の上に大きなボリュームが被さり、そこを抜け一気に体を伸ばしていくルート。野口、野中、渡邉が１撃完登。第３課題は、野中が最終ホールドにタッチするが完登ならず。結果第３課題は完登者ゼロに終わった。



第2課題　第1課題　第3課題

●女子決勝リード



OnlineObservationより

女子のリード、ほぼボリュームで構成されたシンプルだけどパワフルに感じるルート。中央のトラバースで、てこずり落ちる選手が多いなか、谷井、野中が31＋まで伸ばす。そして圧巻は、野口が野中、谷井が取れなかったホールドを確実に取り、最終ホールド手前の36＋まで伸ばすパフォーマンス。ボルダリング、リードともに１位の野口が優勝、野中が２位、そして参加資格繰り上げから出場した渡邉が３位となる。

女子			BOULDERING				LEAD				
順位	氏　名	No	完登/zone	アテンプト	BPP	BP	高度	LPP	LP	総ポイント	予選
1	野口　啓代	W019	2T3Z	4/5	73.6	100	36+	90.5	100	200	4
2	野中　生萌	W018	2T3Z	6/7	73.4	99.72	31+	78	86.18	185.9	1
3	渡邉沙亜里	W003	1T1Z	1/1	33	44.83	20	50	55.24	100.07	7
4	谷井　菜月	W017	0T1Z	-/2	8	10.87	31+	78	86.18	97.05	6
5	中川　瑠	W015	0T2Z	-/10	15.9	21.6	25+	63	69.61	91.21	5
6	伊藤ふたば	W016	0T2Z	-/3	15.97	21.69	23	57.5	63.53	85.22	3
7	小池　はな	W012	0T3Z	-/5	24	32.6	17+	43	47.51	80.11	2
8	小武　芽生	W004	0T0Z	-/-	0	0	23+	58	64.08	64.08	8

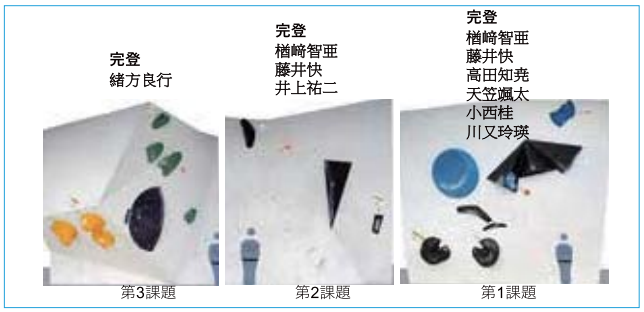
＊BPP、BPポイント算出は運営を参照

――女子決勝、オリンピック代表が１、２位となりましたね。スピードのシュミレーションを行ってからのコンバインド、他の選手より疲れている中でのパ

フォーマンスに意気込みを感じました。

藤枝：そうですね。東京2020代　表の野口と野中が競り合う展開となり、ボルダリングでのアテンプト差で首位をキープした野口がリードでも最高高度を叩き出し見事優勝ち取った。オリンピックまであと一ヶ月さらに強い姿が見られると思っています。また、予選からテンポの良いクライミングで好調さが目立ったベテランの渡邉沙亜里が３位に入賞したのはちょっと驚きました。繰り上げからの参加での３位はまさに快挙です。

●男子決勝　ボルダリング



第１課題は、６名が完登。第２課題は、緩傾斜に極小ホールドで、ちょっと自然のスラブ感を醸し出すルート。楢崎智亜、藤井快、井上祐二が完登。第三課題は、多くの選手がＺＯＮＥで終わる中、緒方良行のみが一撃完登。

●男子決勝　リード

OnlineObservationより

リードでは、選手の獲得高度が上部の傾斜が強まる30前後に集中する。緒方、藤井、楢崎は33まで伸ばし次のホールドを取りに行くムーブを模索しながら落ち33＋で並ぶ。ボルダリングの成績差で楢崎が優勝を勝ち取る。その差０.28ポイント。

男子				BOULDERING				LEAD				
順位	氏	名	No	完登/zone	アテンプト	BPP	BP	高度	LPP	LP	総ポイント	予選
1	楢崎	智亜	M21	2T3Z	4/4	73.6	100	33+	83	100	200	4
2	藤井	快	M20	2T3Z	6/6	73.4	99.72	33+	83	100	199.72	5
3	緒方	良行	M18	1T2Z	1/3	40.87	55.53	33+	83	100	155.53	7
4	高田	知尭	M14	1T2Z	2/3	40.77	55.39	33	82.5	99.39	154.78	1
5	天笠	颯太	M19	1T3Z	1/5	49	66.57	29+	73	87.95	154.52	3
6	小西	桂	M04	1T2Z	1/2	40.88	55.54	31+	78	93.97	149.51	8
7	井上	祐二	M11	1T2Z	2/3	40.77	55.39	30+	75.5	90.96	146.35	2
8	川又	玲瑛	M06	1T2Z	1/2	40.88	55.54	27+	68	81.92	137.46	6

――男子は、オリンピック代表の原田が欠場となりましたが、女子と同じくオリンピック代表が優勝しました。

藤枝：天気予報とおり、小雨の降る中のリード競技、最終局面手前の上部のトラバースから一気に強度が上がる設定で苦戦する選手が続出していました。そんな展開の中、最初に手数を伸ばしたのが緒方、そして続く藤井、楢崎に完登への期待が膨らむも同高度でムーブを解決できずフォール、ボルダリングで一歩リードした楢崎が優勝。最後まで分からない展開で面白かったです。

2. 運営

【成績集計】

以前：３種目の順位を掛け算

今回：上記方法を２種目で行った場合、同着の可能性が高い。2021年ＩＦＳＣ総会（４月）ワーキンググループ発表のフォーマット案（パフォーマンスポイント）を採用。

●ボルダリング

- 完登数×Ｐ１＋ゾーン×Ｐ２＝①（基礎Ｐ）
- 同点タイブレイク
  ①－アテンプト数×Ｐ３＝②（ＢＰＰ）
- ＢＰＰ１位を100点とした相対ポイント＝③（ＢＰ）
  ＊Ｐ１：完登（予25、決33）、Ｐ２：ゾーン（予５、決８）
  ＊Ｐ３：アテンプト（完登－0.1　ゾーン－0.01）

●リード

- 獲得高度×Ｐ４＋Ｐ５＝④（ＬＰＰ）
- ＬＰＰ１位を100点とした相対ポイント＝⑤（ＬＰ）

●複合ポイント　③＋⑤＝　順位決定

――新しい成績算出の方法、選手のパフォーマンス（ボルダリング：完登数、リード：到達高度）を数値化し、各種目のポイントの合計で順位を決めましたが、運営面からみてどうでしたか？全体的には問題ないと思いま

すが、一部「ボルダー有利では」という意見も聞かれました。

山崎：リード及びボルダーの成績比がイコールとは言えない。こちらに関しては個々の主観も多く、落としどころの問題だと思っています。個人的には複合競技なのでそれぞれの競技間の比重に差が出ても良いとは思っています。

山本：種目毎に言うと、ボルダーは通常の競技の集計と余り変わらず、問題ないように思われますが、リードは色々検討の余地がありそうです。リードのポイントの算出法は、順位ポイント＝平均順位を出す必要がないため以前よりシンプルになっていますが、高度記録だけだとタイが発生しやすくなります。結果的に、リードで選手を大まかに分けて、ボルダーで細かい順位を付けていると言う印象を与えてしまいます。

考え方として、時間記録を同着のタイブレークに使用することは可能なので（ex. 順位が同じだったら速い方のＬＰＰに0.1ポイント付加）検討の余地はあるでしょう。

――見せる（ＴＶ中継）という観点から「分かりやすい」、「逆転の可能性」がポイントになりますが、まだそこはもう少しでしょうか。

山本：リードは高度からポイントを算出するため、例えば全体の２／３程度の高さに大核心を置き、そこを通過できれば完登というルートになってしまうと、ボルダーでポイントを取れなかった選手が一気に逆転できる可能性があります。そうした逆転の余地で大会が面白くなる半面、セッターによる恣意的なコントロールの可能性が生じてしまうことになります（決してそういうセッターがいる、と言う話ではありません）。

――面白そうですが、一発逆転になりすぎると今までの成績は何だったとなりそうですね。

この点については、例えば１位の選手のＬＰＰと最下位の選手のＬＰＰを出し、他の選手はその差を人数で当分割してＬＰＰを与えると言う方法もあり得るでしょう。今回の男子予選のように１位が97.５、最下位62.５で、選手数21だと、差の等分割は1.75ですから、２位は95.75、３位は94、４位は95.25……となります。

――さて、システム的にはどうでしたか？

山崎：競技フォーマット等は明確だったので競技の進行上は問題ないと感じました。新たなリザルトシステムだったため、確認に時間を要したこと。選手や観客の理解度に差はあるが、伝わりにくい採点方法と感じました。

山本：システム全体でやっかいなのは、下４桁目を四捨五入した下３桁までの値で順位を出し表示は下２桁までという形式で、これで一般から見てわかりにくくなる面もありますし、システム作成上無駄にややこしくなっています。

スピードの場合もこの点は同様ですが、こちらは他競技で１／1000秒まで使っているものがないと言うのが理由のようです。要は１／1000秒の差は、本来誤差の範囲ということでしょう。しかしコンバインドのポイントの場合、時間計測ではないので下３桁を表示することに問題はないように思います。

【マーケティング】

①来場数　選手62名、帯同者20名、来賓22名、メディア59名、一般観戦（19日）51名

②中　継　YouTube

- 予選：live聴者数919名（１週間後20,838回）
- 女子決勝：live聴者数1,831名（１週間後36,540回）
- 男子決勝：live聴者数1,549名（１週間後32,286回）

＊チャットには、海外からのメッセージあり。

②メディア（センテより）

今回も取材制限（人数）を引きましたが、オリンピック前の代表選手の仕上がり、新しいフォーマットへの注目などの要素多くの取材、露出がありました。

- 取材実績　59名（22社）
  会場記者13名　フォト19名　ＴＶ19名
  オンライン記者８名　フォト０名　ＴＶ１名
- 露出
  新聞　６月19日　10社、６月20日　17社
  Web　６月17日～20日　33社　44回
  ＴＶ　６月18日　NHK「ニュース９」、NTV「NEWS ZERO」、EX「報道ステーション」、TBS「NEWS23」
  ６月19日　CX「LIVEニュースα」、TX「スポーツウォチャー」、NHK「サンデースポーツ」、NTV「Go ing」、EX「サタデーステーション」、TVS「S1」、TX「SPORTウォチャー」
  ６月20日　NTV「シューイチ」、EX「サンデーLIVE」、TBS「サンデーモーニング」

（露出例）

●中　継

――さて、中継についてですが、無観客のため画面での見せる化に力を入れてきました。一昨年よりＡＲでの展開、ＳＪＣからは、スポンサーロゴの演出も行ってきました。注力している点などいかがでしょうか。

藤枝：今大会ではボルダリング、リード競技ともに、ＡＲでの選手紹介・スポンサー広告、ＣＧによる課題紹介やリードでのＡＲ高度表示などこれまでも取り組んでいたデジタル技術による映像演出をおこないました。また、コンバインド種目の採点方式の変更に合わせて成績表示のＣＧも新たに作り直したものを使用しています。運用上はトラブルなく進みましたが、複雑なポイント計算のため、視聴者にわかりやすく途中経過を伝えるという側面においてはまだ改良の余地があると感じています。こちらは今後のＩＦＳＣの中継での表現なども参考にしながら改良を加えていけたらと考えています。

次に協力業者の担当者からコメントをいただきましたので紹介します。

■株式会社アップライト　上倉享

スポーツクライミング中継のシステム及びグラフィック開発をきっかけにこの仕事を始め、現在ではプロ野球、卓球、サーフィンなど各種スポーツと関わることとなりました。リザルトシステムとの連動や複雑な競技フォーマットへの対応などで培ったノウハウを他競技へと発展させることも多く、今回のＣＪＣ2021に限らず、大会のたびに多くの発見があります。また予選からの全編中継をすることでの視聴者からの反応は、他競技よりも大きく年々手応えを感じています。YouTube中継ではルートセッターや選手たちに競技解説のお手伝いをお願いすることも多いですが、こちらも競技をより分かりやすくしていると感じるので、大変感謝しています。

■アーケ株式会社（OnlineObservation）筒井真佐人

日頃より映像制作の分野で業務を行なっている人間から見て、スポーツクライミングが持つ「大会ごとにフィールド（壁）のデザインが異なる」という特性はとても面白く、そのコンテンツ力・発展性に驚いています。また回を重ねるごとに大会内で実施される内容の拡充も多く見られ、進化をし続けている競技・大会である事に異を唱える人はいないと判断しています。弊社が持つ技術でこれからもその進化の一部を担う事が出来ればと思っています。

＊OnlineObservationの技術は、先週インスブルックで行われたＷＣに採用されたと聞いています。日本で行ってきたことが、世界標準になってくるのは嬉しく、良かったと感じています。

COVID―19対策

COVID-19対応として、変異株の感染者が増えてきていることもあり、今までの感染防止策の徹底に加え、1密でも感染の可能性（ゼロ密へ）があるという認識での運営に取り組みました。また、屋外の競技施設ということもあり、決勝のみですが、３月の第34回リードジャパンカップ以来の有観客大会としました。緊急事態宣言下のため、観客スペースの面積から最大100名と設定し、観戦希望者は事前登録制とし、健康チェックアプリMetellの登録と抗原検査での陰性確認をお願いしました。当日は雨の予報だったためか74名の観戦申込のうち51名の来場にとどまりましたが、大きな混乱もなく運営することができました。

３．その他

今回の会場、岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場は、昨年の８月にコロナ禍においてのイベント再開としてＬＪＣ2020を開催。今回は、変異株の増加もあり、厳しい状況にもありましたが、有観客開催にご理解、市長、知事の来場と大会開催に多大な協力を頂きました。岩手県、盛岡市、岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場、そして主管いただいた一般社団法人岩手県山岳・スポーツクライミング協会の方々のご協

力のおかげだと感謝しております。また、選手、スタッフ、協力企業、協賛各社、放送関係者など多くの方々のご協力によってスムーズに運営することができました。重ねて感謝申し上げます。

今後、競技委員会は大会を通じて各ステークホルダー（選手、観戦者、開催地、スポンサー、メディア）の満足度を上げ、競技としてメジャーになることを目指します。そのためにも活動指針を

- 熱狂する舞台の創造　・世界との連携
- 既存事業の価値拡大と収益機会の多様化
- 社会へ貢献（ＳＤＧｓなど）

として、取り組んでいきたいと考えています。

――今大会は、八木原会長、平山副会長体制下としては最後の大会となりました。いかがでしたか。

藤枝：自分は2013年の世田谷での第８回ボルダリングジャパンカップから中継での大会サポートにはじまり、2015年からは競技委員として運営のお手伝いをさせてもらっていますが、この間のスポーツクライミングのメディアでの注目度の上昇は大きく変化しました。もちろんオリンピックでの追加種目としての採用決定は大きな要因だとは思いますが、八木原会長をはじめとするＪＭＳＣＡの方々のご尽力の結果だと感じています。本当にお疲れ様でした。

大会ＰＶ URL & QR
https://youtu.be/w2rhJ7tzCZ0

４．選手強化

強化委員長　安井博志

オリンピック種目であるコンバインド種目で競うジャパンカップはオリンピックを目指す選手達には重要大会となっています。しかし、今年４月から国際競技大会も再開されたことで日程調整が困難であったこととコンバインド種目が東京2020の３種目からパリ2024では２種目となることが決定したという難しい状況の中での開催となりました。これらの状況を踏まえた上で最適な競技大会にするためアスリート委員会、競技委員会、強化委員会の３つの委員会で、すべての選手達の良き機会となるよう協議し第４回コンバインドジャパンカップの概要は決定しました。

東京オリンピック内定選手は３種目の経験となるようにスピードジャパンオープンを同時開催し、パリ2024を目指すスピード選手達とも真剣にレースする機会となりました。見事に野中生萌選手が自身の日本記録を塗り替える好タイムで優勝しました。

またボルダーとリードの２種目においてもベテラン選手からユース選手まで幅広い層の選手達が活躍し男子楢﨑智亜、女子 野口啓代の東京オリンピック内定選手共に優勝しました。今回のコンバインド種目では順位ポイントではなく、パフォーマンスベースを利用した試案中の新方式ルールで競技を行いました。完登数と高度によって順位が決定されるため実力が試される結果になったと思います。今後は両種目においてより高いレベルでそれぞれの競技力を身につけることが求められます。そして、日本にとっては2008年大分国体から採用された国体競技の２種目がパリオリンピックのコンバインド種目になります。多くの日本選手達になじみ深い種目になると思いますので、引き続き選手達の活躍にご注目ください。

一般社団法人岩手県山岳・スポーツクライミング協会
会長　吉田春彦

昨年の８月にコロナ対策後初のＬＪＣ、10月のジャパンツアー開催と日山協の大会が続き、６月にＣＪＣを開催することになったが、大会の日程は何度も変更協議し最終的にワールドカップ参戦の為18日19日に決定。18日は平日で競技運営スタッフが集まらずどうなることかと思ったが、オリンピックのシュミレーションも合わせて行い選手数も20名と少なかったので何とかなった次第である。

コロナ感染予防対策も昨年より厳しく、選手だけでなく運営スタッフもＰＣＲ検査をする事になり、岩手県知事を始め県や盛岡市の職員そして会場の運動公園職員までもが岩手県実行委員会の負担で検査をすることになった。

万全なコロナ対策を行ったうえで大会を終えることができたことに感謝するとともに、オリンピックが無事開催され、岩手盛岡でいい成績を残した日本選手団の皆様が、メダルを獲得し、さらにスポーツクライミング熱が高まることを関係者一同願っている。

第151回 Mountain World

冬季K2の遭難者 遺体で見つかる

池田常道

夏のカラコルムシーズンを迎えて、K2（8611 m）には十数隊が殺到、50名を超えるクライマーとシェルパ、地元ハイポーターがおもにアブルッツィ（南東稜）から登頂を目ざした。ネパールで蔓延しているコロナウイルスが持ち込まれるのを警戒したパキスタン当局は、夏を前にしてネパールからの入国を規制したが、その後条件が緩和され、条件付きでネパール人にも許可を出した。

ネパールの大規模公募隊はそれ以前に見送りを決めていたが、マディソン・マウンテニアリング（米）など数隊はシェルパを伴った編成で入山。また、ミルザ・アリのカラコルム・エクスペディションは、クライアント11名に同数の高所ポーターを国内でそろえて公募隊を送り込んだため、Ｋ２商業化の傾向は避けられない現実となった。

冬のK2に消えたムハンマド・アリ・サドパラの息子サジードも父の消息を求めて、フィルムメーカーのエリア・サイカリと組み、パサン・カジ・シェルパを伴ってK2に向かった。

真っ先に３人の遺体を発見したのは、ルート工作に従事していたマディソン隊のシェルパたちで、７月26日のことだった。まず、C4から程遠くないところで、固定ロープにユマールを噛ませたまま雪に埋まっていたモールが見つかり、ボトルネックのクーロワールでアリ・サドパラ、さらに上部でジョン・スノーリも見つかった。急行したサジードは、アリ・サドパラとモールを固定ロープから解き放ってルートから外れた雪に埋め、家族に引き渡すため若干の遺品を持ち帰った。スノーリの元にも達して調べようとしたが、8300 mに近い危険な場所なので、固定ロープから解放することもできなかったという。ただ、スノーリのＧｏＰｒｏには足元に黄色い固定ロープのショットが残されており、これは冬に登頂したネパールチームが張ったものと同じだという。

３人は下降する途中で力尽きたものと思われるが、頂上に立ったのかどうかは判定できない。モールの位置からして、彼はあとの２人が下りてくるのを待っていたのではないかと推測されている。

＊

今季無酸素でK2頂上に立ったのは、たった２人だけだった。ベルギーのニルス・イェスパースとボリビアのウーゴ・アジャビリで、ブロード・ピーク（8051 m）に立った10日後に南東稜から頂上に立った。

この夏のK2では、もうひとり死者が出た。スコットランドのリック・アレンで、ミルザ・アリの公募隊に参加し、スペインのジョルディ・トサス、オーストリアのシュテファン・ケックと３人で南東面の新ルートをアルパインスタイルで登ろうとしていたところ、７月25日、C1近くで雪崩の犠牲になったもの。仲間２人も負傷したが、ヘリで無事収容された。

アレンは67歳。2012年に、サンディ・アランとナンガ・パルバット（8126 m）の長大なマゼノ・リッジを初めて頂上まで完登するなど、晩年まで冒険的なヒマラヤ登山を続けてきたことで知られる。

また、コンダス谷のＫ13（ダンサム）西峰（6600 m）がフランスのマルティン・エリアス、ヴィクトル・ソセード、ジェレミー・スタニェットによって北壁から初登頂された。ルート名はハーヴェストムーン（1600 m、M6 WI6）。

ヒスパー氷河のプマリ・チッシュ東峰（6850 m）はマチュー・メイナディエ（仏）とトム・リヴィングストン（英）が南東稜を４日間で登ったが、５日目に天候が悪化し、頂上まで100 mのところで敗退した。

K2南東稜上部とボトルネック
３人の遺体が発見された地点を示す（上から順にジョン・スノーリ、アリ・サドパラ、フアン・パブロ・モール）

新連載 Enjoy Climbing

増本亮&さやかの Never Ending Journey⑨

ウェイブ・エフェクトへの挑戦

トーレ谷には多くのクライマーが入山していた。どのクライマーの表情からもようやく山に入ることができた喜びが溢れている。目的はそれぞれ違えど、パタゴニアに集うクライマーの間には不思議な一体感がある。この厳しい環境で山に向かおうとする気持ちに変わりはなく、お互いを尊重し敬う雰囲気が心地よい。トーレ谷のベースキャンプから遠望するデスモチャーダ南面は雪の付着は、ほとんどないように見える。ひとまずチャレンジだけはさせてもらえそうな状態に、少しだけほっと胸をなで下ろす。同志とも呼べるクライマー達から勇気をもらい、デスモチャーダを目指した。ベースキャンプをゆっくり出発し、一日かけて骨の折れるアプローチをこなした。基部から見上げる岩壁にも目立った雪や氷はなく、手ごたえを感じていた。自分を信じて良かったという気持ちと明日からの期待を胸に眠りについた。

翌早朝予定通りクライミングをスタートした。出だしの７ピッチは傾斜も緩く易しいため同時登攀を交えスピーディーにこなす。大きなテラスに辿り着きここから岩壁は一気に傾斜を増す。そこからの光景に私は困惑した。ルートであるコーナークラックに多量の氷が詰まっている。ここは基部から確認できなかった部分だ。そのコーナークラックまでの途切れ途切れのフレークを辿るラインも、フレークの中に完全に氷が詰まっていてまともにロッククライミングはできそうにない。それでもそう簡単に諦めるつもりはない。こんな状況を受け入れてこそのパタゴニア登山だ。右上方に別のコーナークラックがある。ここには雪や氷の付着がない。同じ岩壁内でありながらライトフェーシングコーナーとレフトフェーシングコーナーで全く状態が違うことは、とても不思議な現象だ。そのなんの情報もないコーナークラックに向けて、そこに辿り着けるのか分からないフェースを私は登り始めた。顕著なクラックラインでは無いため、プロテクションがどこで取れるか確証はない。一手を伸ばし、一歩に立ちこんでいくその動作一つ一つに緊張が走る。そこには奇跡的にもぎりぎりの線でホールドとプロテクションの取

デスモチャーダ南西壁で未知なるラインに可能性を探る筆者

れる途切れ途切れのフレークが繋がっていた。辿り着いたコーナークラックは快適で、順調に高度を稼いだ。図らずも３ピッチの新ラインを拓き既成ルートに合流した。ここまでかと思わせる状況を打開したものの感慨に浸っている暇はない。合流した既成ルートは予定していたルートよりも難易度が高く、岩も少々脆かったためスピードは上がらなかった。気温も低く陽は一切当たらない。凍える手に息を吹きかけながらじりじりとロープを伸ばした。壁の中ほどにある「鷹の巣」と呼ばれる岩棚に辿り着いた時は日が暮れようとしていた。気温もさらに下降し素手でロッククライミングをするには限界に近かった。予定ではデスモチャーダ山頂付近でビバークの予定だったが、今夜はこの鷹の巣までが精一杯のようだ。大きな棚ではあったが、ごつごつして平らな分部はほとんどない。荷物やギアを凹みに押し込みどうにか二人が横になれるスペースを作った。

遅い夕食を取りながら、冷静に今日の状況を分析し明日からの行動を検討する。遠目には確認できなかった雪や氷がルート上にあり、気温も低く登攀スピードは上がらなかった。この先もその状況は変わらず今日の遅れを挽回するのは難しいだろう。粘ってフィッツロイ周辺で悪天につかまれば下降することもままらないのは分かっている。だが簡単には諦められない…。葛藤を抱えたままシュラフに潜り込んだ。その気持ちにケリをつけるように、ツエルトの生地をサラサラとたたく音がし始めた。予報は終日快晴だったが、それはあくまで予報に過ぎない。弱い粉雪は明け方まで降り続いた。私はフィッツロイまでの縦走を断念し、デスモチャーダの登頂に目標を切り替えた。ここから先は傾斜がゆるみはじめ難易度も易しくなるが、それ故にホールドには雪が積り、それを払いのけながらの登攀を強いられた。山頂直下ではあわや敗退かと思わせる様なプロテクションの取れないフェースを、決死のマ

ントリングで切り抜けた。前夜の雪がなければ特別印象にも残らなかったことだろう。「頭のない」を意味するデスモチャーダの特徴的な山頂から、まじまじとラ・シージャとフィッツロイを眺め、登るはずだったルートを目で追った。そして次への決意を胸に秘め踵を返した。

チャルテンに戻りまずすること、それは山行を振り返ることだ。何がダメで何が良かったか。自分の予想と現状との差。装備の選定。食糧や燃料の量。登攀や行動のタクティクス。天気予報と実際の天気。パートナーと様々な事柄を精査し改善点を見つけていく。その蓄積が当然ながら次の登山に繋がっていく。結果的には一言で言えば私の見積もりが甘かった。山はウェイブ・エフェクトをトライできるような状態ではなかったし、そんな天候でもなかった。だが今の私にとってはそれはトライしてみなければ知ることができなかった。挑戦し体験することでしか得られないものがある。次につながる大きな糧を得た私たちは、晴れ晴れとした気持ちで次の好天を待った。

次号につづく（亮・記）

SAGAスポーツピラミッド（SSP）構想の発射台に

去る７月９日、佐賀県とＪＭＳＣＡは、スポーツクライミングの若手選手の育成などに取り組む「ＳＡＧＡスポーツピラミッド（ＳＳＰ）構想」の一環として、連携協定を締結しました。今回の提携は、葛飾区につづいて二件目となりますが、都道府県としては第一号であり、この日を迎えるにあたっては、山口祥義知事、多久市横尾俊彦市長は勿論のこと、佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟、宮原敏明会長、同樋口義朗副会長の長年のご功労に因るものであり、心から称賛いたします。スポーツクライミングが、同県民の生涯スポーツの一つとして、更に発展・普及し、ＪＭＳＣＡ９ブロック各地において、同様のチャレンジがつづいていく事を願うものです。

協定調印式でのＪＭＳＣＡ丸会長、小日向副会長、
佐賀県 山口知事、他関係者
2021年７月９日佐賀県庁にて

（丸誠一郎　記）

寄贈図書

会報	(特非) 日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.83
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.497
	(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.519 202107
	ソル・メディア	「CLIMBERS」No.020
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」441号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第649号
	(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2021年７月 No.377
	(公社) 東京都山岳連盟	とがくれん通信2021年２号
	(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.56
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」８月号 No.558
	(公財) 全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」.41
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1097
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第355号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.740
	(公社) 日本山岳会	「山」2021年７月号　No.914
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」５月号第484号
寄贈本	㈱ソル・メディア	「私とクライミング 野口啓代自伝」野口啓代
	KADOKAWA	「東京2020オリンピックテレビ＆配信オフィシャル観戦ブック」
	KADOKAWA	「東京2020オリンピック・パラリンピック公式競技図鑑」
	KADOKAWA	「東京2020オリンピック・パラリンピック公式ガイドブック ジュニア版」
	富山県山岳連盟	新版「富山の百山（グレーディング版・ピッチマップ付き）」富山県山岳連盟編
広報誌	(公財) 日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレイニュース」Vol.131
雑誌	(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」８月号 No.890
	(株) 山と渓谷社	「山と渓谷」８月号 No.1039
新聞	(株) 日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2331号、第2332号

夏山リーダーテキスト完成

ＪＭＳＣＡ登山部の指導、遭対、医科学３つの委員会が合同で作り上げた夏山リーダーテキストが基礎編と上級編に分けて完成した。

３つの委員会が合同で減遭難活動を進めていくスタートを切る。

「お世話をおかけしました」

八木原圀明

６月20日の本協会総会において３期６年間の会長を退任させていただきました。神崎忠男前任会長下の副会長４年を足しますと10年間の長きにわたって職責を汚したことになります。専務理事、事務局長などまで、と言うと飛んでもない犯罪を犯したかのようです。神崎会長時に社団法人から「公益社団法人」となりました。

忸怩たる思い

私といたしましては結果的に「何もできなかった、いかにも中途半端だった」が自身の評価です。「鳥なき里のこうもり」のこうもりのようなつもりで勘違いしていたということでしょう。具体的な目標、具体的な道筋を私自身が指し示せなかった責任。笛吹けど踊らず。笛の吹き方が弱かったり、曲が間違っていたり、同意してもらえないメロディであれば、事態は動かない。当然でした。

７月29日現在コロナウィルス感染の第５波は感染拡大の一途をたどり、東京は連日の3000人越え、4000人に迫っています。全国では１日に10.000人超。１年半の感染の中で最悪の状況になっています。そんな状況下での2020東京オリンピックが開催中であること、本退任あいさつも８月５日、６日のスポーツクライミングの決勝、結果を見届け、４出場選手への慰労、祝意を届けてから、の気持ちもありましたがそれは新役員の皆さん方にお願いすることにしました。

大変革の時代に

任期中の出来事は現在が登山界だけではない社会的大変革、変わり目の時代であることを考えますと就任時の「組織や事業の見直し、定款はじめ規程規約の整備」は理事・役員の皆さんのお陰で進みましたがそれらに終わりはありません。理事の選出法、理事会の在り方も大きく変わりました。地方ブロックからの異論は未だに聞こえますが、それ無しに大変革時代での活動推進は適いませんでした。

私共の周りだけでも８月11日が国民の祝日「山の日」となり、国体は「国民スポーツ大会」へ「国体山岳競技」は平成20（2008）年、大分国体から縦走も無くし、スポーツクライミングのみとなり、アーバンスポーツなる括りで令和１（2019）年、茨城国体から「スポーツクライミング競技」に改称。学校体育から社会体育、地域体育へ。日本政府は、文部科学省・スポーツ庁は「体育」という言葉は全て「スポーツ」という言葉に変え、「体育」は死語になります。そんな時代です。

パッケージによる追加種目であっても2020東京オリンピックへのスポーツクライミングの競技種目入りは歴史的な大事件でした。2024パリ五輪、2028ロサンゼルス五輪へとつながります。ロスでは正式競技種目でしょう。スポーツクライミングは私共が若かった時に胸を焦がし熱中した岩登り、ロッククライミングを起源とし、大進化を遂げ、特化した競技です。ＩＯＣも若者に支持されなくてはオリンピックは成り立たないことを認識しています。

協会名の変更

ＩＦＳＣ国際スポーツクライミング連盟，に言われるまでもなく、登山とスポーツクライミングを活動の両輪と詠う本協会としては当然の協会名変更の検討開始でした。諮問委員会を設置し、答申を受け、臨時総会を開き賛否両論の議論の末に「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」が発足しました。

会長は理念だけを忘れないように考え続け、他のことは出来るだけ口を出さないのが良い？あるいは「理念など念仏と同じ」と心得、現実と向き合い、任せることが肝要等々考えれば高邁な理想、理念を掲げることなく出発してしまったことは反省しておりますが、細かいことを言わずに役員の皆さんにお任せ出来、進められたことは「人を得ていた」と言えましょうし、有難いことでした。

自己破産か

「及ばざるは過ぎたるより勝る」と考えれば私の先進的思考力や発想力不足は理事の皆さんの力を発揮させることとなり、目の前に次々と現れ噴出する難題課題の処理解決にみんな必死でした。特に2019年の世界選手権大会施設の設計変更、それに伴う巨額費用増大の連続的表出には本当に悩まされました。「予算」は絵に描いた餅、あって無きが如く。

目の前に迫っている大会開催は、巨大支出を追認、黙認せざるを得ません。臨時理事会を開き、ことの大きさ、現実を確認するだけでした。この期に及んで世界に向かって「大会の返上、中止」を言える訳がありません。「ない袖は振れない」と開き直りながらも自己破産まで脳裡をよぎりました。腹をくくりました。（金銭的顛末は丸会長の就任あいさつにあります）

4半世紀前に日山協常務理事に

1993～94年冬の群馬岳連のサガルマータ（エベレスト）南西壁冬期初登攀を終え、私のヒマラヤ登山に一区切りをつけ、これからは全うな人生を生きようなどと殊勝にも考えておりました。イソップの蟻とキリギリス話ではありませんが、キリギリス生活を長いこと続けてきた私は、そろそろ生活態度を変えないことには惨めな老後がかっきりと見えていました。

ところが平成７（1995）年、26年前に坂口三郎新会長に言われて常務理事として日山協に関わる時、当然の如くそれまでのヒマラヤ登山のしっぽを引きずりっ放し、今でいうアルパイン登山がそのまま頭の中を占めていて、それ以外の事をどう発展させるか？などと言うのは難し過ぎました。

それまでの延長線上で登山界を発展させる、考えるしかあるまい程度の思いでした。そこにすでに限界があったわけでした。踏襲、今まで通りで良い、というのは全く通らない時代が来ているとまでは頭が廻っていませんでした。

世界の、日本社会の変容と共に登山界も変わらざるを得ません。人口減、少子高齢社会は野球部員減、いくつもの高校の野球部が１つのチームを作らないと予選に出ることも出来ない現実。柔道部員減、スポーツ少年団員減など多くの競技に及んでいます。

中央競技団体の在り方は指針を示す、必ずしも直営というか、直接開催しなくとも良い。こういうやり方がある、こういう考え方があると示して、加盟団体や関係団体が実行してくれればよい。加盟の岳連・協会も会員減などで自分達で発案できないのであれば見習う、参考にしたら良いでしょう。

のべつ「世の中がこんなに変わっているのに、こんなにも変わってゆくのに」としか言えませんでした。だからこそ同じ人間が続けていてはいけない。新しい発想が出来る、果敢な決断が出来る人間がリーダーにならなくてはなりません。そして理事は自分の担当分野だけではなく、組織の活動全体に眼を配って欲しい。新体制の役員の皆さんは自信を持って進んで欲しいと思います。

お世話になりました

ちょっと古くなりますが2016（平成28）年総務省調べの登山愛好者人口は1073万人とありました。公益社団法人たるＪＭＳＣＡは非組織登山者など登山界に声が届くようにして行かなくてはなりません。それをもし忘れるようなことになれば、私共はますます登山者から見捨てられます。山岳・登山とスポーツクライミングの原点を見つめ直す、考え直す必要があるかとも思います。普通の山歩き、沢登りやクライミング。ガイド登山ではないヒマラヤ登山などへの「原点回帰」を。

言わずもがな、なことを申し上げましたが率直な感想です。６年間の任期終了（長短は関係なし）という時期に、最後の最後にＣＯＶＩＤ－９新型コロナウィルスによる、登山界だけではない全世界を揺るがす大災厄（世界中で約２億人の感染者と400万人超の死者）に見舞われ、忘れられない出来事になってしまいました。

様々な本協会創立60周年事業も延期や中止に追い込まれてしまいました。自分達が仕出かしたわけでも、意図したことでも無かったにしても１番の大事件になってしまいました。

最後に全国の会員の皆さん、理事役員、委員の皆さん、本当に有難うございました。たくさんの協賛会社の皆さん方のご支援、心より感謝申し上げます。もう１つ忘れてはおりません、事務局の女性の皆さんにも心より感謝いたします。

昭和、平成、令和時代を駆け抜けてホッとした２人
令和３年６月24日オリンピックビル前にて

42年間の関わりの中で

前専務理事　尾形好雄

1978年、ヒマルチュリ（7,893ｍ）南西壁初登攀と西峰（7,540ｍ）初登頂に成功して帰国したら、当時の日本山岳協会（現ＪＭＳＣＡ）海外登山委員会の広島三朗委員長から「海外登山委員会を手伝え」と声がかかった。本協会との関わりの始まりであった。

1974年に初めてヒマラヤへ出かけるときに推薦状の件で、日山協事務局や海外登山委員会に色々意地悪された自分は、日山協に良い感情を持っていなかった。海外登山委員会から声がかかった時、「よし、中から変えてやろう」と常任委員を引き受けた。

1968（昭和43）年８月、ネパール・ヒマラヤが３年５ケ月の登山禁止の後、再解禁された。この再解禁にあたって発表された新登山規則に「登山隊は、その国の政府、国を代表する登山団体またはその他の科学団体等の推薦状が必要である」と明記された。わが国の場合、外務省はもとよりカトマンズの日本大使館で登山隊に推薦状など交付してくれないため、国を代表する登山団体として日山協がその推薦状交付窓口となった。

当時のネパール政府への登山申請の流れは、先ず所属する都道府県岳連に推薦状交付申請を行い、岳連の推薦状を添付して今度は日山協へ推薦状交付申請を行う。そしてその日山協の推薦状を添付した登山申請書を外務省からカトマンズの日本大使館へ送付依頼し、大使館からネパール外務省へ申請してもらうのである。

当然ながら日本勤労者山岳連盟（労山）加盟の団体は日山協の組織外という事で締め出された。気の毒なことに労山の人達はこの時期、推薦状の要らないインド・ヒマラヤなどへ出かけるしかなかった。

1977年５月、日山協の総会で日山協がわが国を代表する登山団体と自負するならば、労山隊も受け入れて推薦状を交付すべしとの方向性が承認された。海外登山委員会にも労山から委員を派遣してもらい、初代委員として吉尾弘さんが乗り込んできた。そして1978年、石川県労山のイストール・オ・ナール登山隊に初めて推薦状が交付された。

また、パキスタン政府の登山申請では、規則上推薦状は不要だったにもかかわらず、わざわざ日本だけ日山協の推薦状を添付したアプリケーションを受理するようパキスタン大使館及び外務省にお願いした、と云うのだから呆れてしまう。

この推薦状制度については、海外登山委員会でも議論が噴出し、制度運用の改正案などが出されたが、撤廃までは至らず、形骸化するのに留まった。権威付け的なものは排除し、書類等に不備が無ければ推薦状は交付するようにし、交付手数料も不要にした。

ネパール政府への時間のかかる申請については、外務省の了解を得て、1997年から登山隊が直接ネパール観光省へ申請できるようにした。また、パキスタンに関しては、1998年に外務省、パキスタン大使館へ経緯を説明して了解していただき、推薦状を撤廃した。

そもそもこの推薦状がネパールの登山規則に明記されるようになったのは、越境問題や、救助用ヘリコプターの料金不払いなどルール違反を犯した登山隊を追跡できるように、という意図からであった。ネパール政府の登山担当官からはしっかりした組織で毎年登山隊を送るようなところは、その組織の推薦状で構わないといわれたこともあった。しかし、83年の登山規則改定で、国際山岳連盟によって公認された登山団体の推薦状と改悪された。

其の後、90年代に入ってヒマラヤ登山も様変わりし、商業主義的な国際隊に参加する人も多くなり、山岳団体に所属しない人への推薦状も求められるようになるなど、日山協内でも組織的にも無理が生じてきた。この現状にそぐわなくなった推薦状制度の再考をネパール政府へ促してきた矢先の2002年５月、ネパール政府は登山規則の改定を発表し、その中で推薦状は撤廃された。「推薦状制度を撤廃する！」と意気込んで海外登山委員会に首を突っ込んでから24年、ようやくこの“制度崩壊”を見届けることができた。この間には登山者のプロ、アマ問題や在日韓国人の国籍問題など推薦状を廻る様々な出来事は枚挙にいとまがない。

2007年まで海外登山委員会（名称は色々と変わった）に常任委員、委員長、担当常務理事と30年間もの長きに亙って関わった後、会社の定年を機に無為徒食の自由人を謳歌しようと田舎に戻った。ところが田中文男元会長から「遊んでいるなら事務局を手伝え」と呼び戻され、2009年５月から再び本協会に関わることになった。創立50周年、公益法人化、事務所移転、世界選手権、オリンピック、創立60周年・・・アッと云う間の12年間でした。在任中は、大変お世話になりました。ＪＭＳＣＡの今後益々のご隆盛をご祈念申し上げて結びと致します。

編集後記

丸新会長より、登山月報の編集を頼むねと言われたときに、苦労話を聞いていた尾形さんの顔が浮かびました。実際に初めて見ると、「台割り」がどうのと印刷業界の専門用語が飛び交いここからグーグルで勉強です。

表紙の背景色は明るいブルー系が良いなー、アクセントにホールドを何種類かあしらってとのリクエストに明宏印刷様にご協力いただき完成しました。8月号より理事会報告全般を小野寺、スポーツクライミングを安井、登山部を前田、全体を蛭田の4人で編集していきます。初めての4コマ漫画も入れました。だんだんと埋まってきて、あとはトップページの入稿待ち。間に合うかな。これが毎月なのかしら。　（蛭田伸一）

表紙のことば

バルトロ氷河最奥に聳えるチョゴリザ（北東峰7,654 m，南西峰7,554 m（7,665 m））は、梯形状の美しい純白の山容から「花嫁の峰」と呼ばれる。
超人ヘルマン・ブールの終焉の峰でもある。1957年、ブロード・ピークに初登頂して2つ目の8,000 m峰初登頂を果たしたH. ブールは、K. ディーンベルガーと同峰に挑み、6月27日、7,300 m付近から引き返す帰途、ブールは雪庇を踏み抜いて還らぬ人となる。
1958年、桑原武夫率いる京大隊が北東稜から8月4日に藤平正夫と平井一正が北東峰に初登頂。。

（写真撮影者　尾形好雄）

Japan Trail Running Association
トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会
〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355　FAX 03-6451-3767

登山月報　第 629 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和 3 年 8 月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
F A X　03－5843－1635

山岳雑誌 岳人（がくじん）
山と人、時代をつなぐ「岳人」

9月号 発売中
【特集】登山の効用 ―身体と心を整える―
★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格968円(税込)

年間購読がおすすめです。
購読割引　送料無料　限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。
通常価格12冊 ~~10,560円(税抜)~~ 11,616円(税込) → 年間購読なら12冊 9,680円(税抜) 10,648円(税込)　1冊分おトク！

年間購読特典

A4サイズが入る！
岳人トートバッグ
丈夫な帆布製でマイバッグとしても重宝します。
▶サイズ：幅36×高さ37×マチ11cm
全国1,900カ所以上でご優待！
岳人カード

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/
全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ モンベルポスト
フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

ＳＤＧｓで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（Sustainable Development Goals）とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境

関連する主なSDGs	主な取組
12 13 14 15	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会

関連する主なSDGs	主な取組
1 2 3 4 5 6	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動

関連する主なSDGs	主な取組
7 8 9 10 11	・次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

JMSCA

登山者のマナー
山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- □ 傷害死亡・後遺障害
- □ 遭難捜索費用
- □ 救援者費用
- □ 傷害入院
- □ 傷害通院
- □ 傷害手術
- □ 日常生活賠償

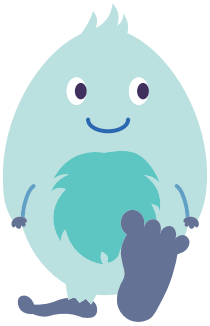
日山協 山岳共済会 〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）

携帯からも資料請求ができます。
https://sangakukyousai.jp



WEBからもお申込みいただけます